

トンガ（2025 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在トンガ日本国大使館](#)

1. 2024 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024 年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	8	15	149	1	2	6	0	0	0	9	17	155

（注）2024 年度日本語教育機関調査は、2024 年 9 月～12 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

トンガにおける日本語教育は、1985 年に日本の無償資金協力でヴァヴァウ諸島のネイアフ島にヴァヴァウ・ハイスクールが建設されたことをきっかけに 1986 年、JICA 海外協力隊員（日本語教育）が派遣されて始まった。翌 1987 年には私立のアテニシ学院大学部、1996 年にはエウア・ハイスクール、2000 年トゥポウカレッジへ JICA 海外協力隊の派遣が開始された。2002 年にトンガ教員養成学校にてトンガ人日本語教師養成講座が JICA シニア海外協力隊の派遣により開始され、2005 年には、初のトンガ人日本語教師が誕生した。

1998 年まで公立（政府系）高校における日本語教育はフォーム 3（日本の中学 3 年に相当）からフォーム 5（同高校 2 年に相当）までだったが、同年よりフォーム 6（同高校 3 年に相当）にも導入され、南太平洋後期中等教育共通試験（Pacific Senior Secondary Certificate Examination : PSSC）の科目として承認された。2012 年からは統一試験の実施管理がトンガ教育訓練省の Examination Unit に移管されたため、PSSC に代わって、ト

トンガ独自の全国統一試験（Tonga Form Six Certificate：TFSC）が実施されることとなった。これに伴い、トンガ以外に日本語を正規の科目として高校で教えている国がないことから、PSSC の科目から日本語は除外された。

2013 年 12 月、日本政府は草の根文化無償資金協力「日本語学習センター整備計画」を通じて、トンガ教員養成学校（Tonga Institute of Education（TIOE））に対して 9,495,954 円を供与し、「ヘイララさくら日本語学習センター」の建設に加えて、LL 教育用のパソコンや AV 機器、日本語及び英語の学習教材の整備を行った。（TIOE は 2023 年トンガ国立大学に吸収合併されている。）

2014 年からはトンガ・ハイスクールとヴァヴァウ・ハイスクールで、フォーム 7 に日本語が開講され、TNFSC（Tonga National Form Seven Certificate）として日本語の試験が実施されるようになった。

2025 年 11 月現在、トンガ人日本語教師 12 名が 7 つの教育機関で日本語を教えている。このトンガ人日本語教師のうち 3 名が 2010 年より JF 海外日本語教師研修（短期・長期）に参加している。（研修を受けたものの、現在、日本語教師をしていない者も 1 名いる。）

背景

トンガに日本語教育が導入されたきっかけは、日本政府の援助で学校が建設されたことである。最初に日本語が導入されたヴァヴァウ・ハイスクールだけでなく、エウア・ハイスクールも日本政府の援助で建設され、同校においても援助がきっかけとなり、日本語教育が開始された。王室の影響力が絶大なトンガで、親日家であった故トゥポウ 4 世国王陛下の下で日本語教育やそろばん教育が導入され、現在まで続いている。

加えて、トンガは、ニュージーランドの教育制度にならい同国から教育関係の援助及び指導を多く受けているため、日本語教育が盛んなニュージーランドの影響も受けていると考えられる。

2023 年ラグビーワールドカップにおいて日本代表のトンガ出身選手の活躍が多く報道されたように、日本の高校や大学へラグビー留学をし、社会人ラグビーで活躍する選手も多数いる。毎年日本の高校からスカウトが来るトンガ・カレッジを始め、多くの男子校では日本へのラグビー留学を目指し、日本語の学習を始める学生も多い。

特徴

一般的に英語以外の外国語教育は盛んではないが、2025 年 11 月現在、日本語が教えられている学校は、公立高校 4 校、私立高校 3 校の計 7 校で、日本語学習者は 251 名となっている。

トンガの日本語教育は 2025 年 11 月現在、すべて中等教育における日本語教育である。

最新のシラバスは、トンガ教育訓練省の指針に基づき、JICA 海外協力隊が改訂し、2016 年度に導入された。

新型コロナウイルスの影響で JICA 海外協力隊が帰国したためトンガ人日本語教師が中心となって日本語教育を行っていた。2023 年 8 月に JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が再開され、トンガ人日本語教師と JICA 海外協力隊員が共に指導に励んでいる

最新動向

2025 年、トンガ国立大学（旧トンガ教員養成学校）における日本語教育について、日本語の指導ができる教員の不足により、また、トンガの教育資格や学校認定を管理する政府機関である Tonga National Qualifications and Accreditation Board（TNQAB）から日本語の授業に対する学位認定を得るために、日本語の授業を休止としている。2026 年の再開に向けて TNQAB と協議している。2025 年 9 月に開催された日本語スピーチコンテストでは、6 年ぶりに離島の生徒がコンテストに参加でき、日本語の授業を行っている全ての学校から日本語学

習者が参加した。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

トンガの日本語教育の中心となっているのは中等教育である。2025年11月現在で、公立のヴァヴァウ・ハイスクール、トンガ・ハイスクール、トンガ・カレッジ、エウア・ハイスクールと私立のタイルル・カレッジ（トンガタブ）、セント・アンドリュース・ハイスクール、クイーン・サロテ・カレッジの7校において日本語が教えられており、約250名の生徒が選択科目として日本語を学んでいる。（なお、2023年中は、トゥポウカレッジにおいても豪州NSW州のシラバスを用いた独自の日本語教育がなされていた。）

中等教育における日本語学習者は主にフォーム3（日本の中学3年に相当）からフォーム6（日本の高校3年に相当）までで、2014年からフォーム7（大学予備課程）でも開講された。また、2010年より新たにトンガ・カレッジにてフォーム3の学生を対象に、2011年にはセント・アンドリュース・ハイスクールでもフォーム3の生徒を対象に日本語の授業が行われるようになった。同校では日本語教師が確保できず一時休講していたものの、2017年度より再開された。

高等教育

2025年11月現在、日本語教育の実施は確認されていない。

2024年度までは、高等教育段階における日本語教育機関としては、トンガ教員養成学校（現トンガ国立大学）があった。同学校では、対象を「高校で4年間日本語を学習し、トンガの標準的なフォーム6認定（Tonga Form Six Certificate：TFSC）に合格している者」（もしくは同等レベル以上）に限定して開講されていた。2年間日本語及び日本語教授法を専攻科目として（学生は2教科を専攻できる）学び、卒業後は日本語教師となる。

学校教育以外

過去にNGO Tonga Youth Employment & Entrepreneurship（帰国留学生会会長による日本語教育）が開講していたことがある。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

義務教育は4～18歳。（教育法による）。（注：4歳は初等教育前のkindergarten）

初等教育は6年間。5歳入学だが、卒業年齢はさまざまである。統一試験でより高い成績が必要とされるハイスクールへの入学を希望するために6年生を繰り返す生徒もいる。

2020年以降トンガの教育訓練省は6年生の統一試験を廃止した。ほとんどの公立小学校（クラス1～クラス6）は中学校レベル（フォーム2）にまでに拡大した（これにより、クラス1～6、フォーム1～2の生徒がい

る Government Middle School に変化した)。そのため、トンガ教育訓練省の統一試験は、現在、フォーム 2 (日本の中学 2 年相当) のトンガの全生徒を対象とすることに移行した。(注: 公立ハイスクールはフォーム 3 から始まる。これに対し、私立小学校 (Primary School) はクラス 1~6 で構成され、私立ハイスクールはフォーム 1 から始まる。)

ほとんどのハイスクールの卒業年数はフォーム 6 (日本の高校 3 年に相当) で卒業するかフォーム 7 (大学予備課程 (大学 1 年次相当)・日本の高校 4 年相当) で卒業する。フォーム 6 終了時に、トンガの標準的なフォーム 6 認定 (Tonga Form Six Certificate: TFSC) 試験を受け、合格すれば、フォーム 7 または USP (南太平洋大学) の基礎プログラムやトゥポウ高等教育機関 (といった高等教育: Tertiary Education) へ進学することができる。その試験結果によって、就職や技術・職業教育訓練に進む可能性もある。

全てのハイスクールのフォーム 7 は上述の USP の基礎プログラムに相当し、これらを卒業できた生徒は、希望すればそのまま大学の学部課程に入学することができる。

フォーム 7 の生徒は標準化されたトンガ全国フォーム 7 認定 (Tong National Form Seven Certificate) 試験を受験し、その結果が大学入学試験や各種奨学金採用試験の基礎となる。

(注: 2023 年のトンガ国立大学の成立に伴い、看護学校やトンガ科学技術専門学校などの政府系専門学校は、同大学に統合された。)

教育行政

教育訓練省の管轄下にある公立校 (Government school) と主に教会が運営する私立校がある。

言語事情

公用語はトンガ語と英語。英語は公用語となっているが、一般家庭では主にトンガ語が使われている。

外国語教育

2009 年までは小学校 1 年から国語を除く全ての教科が英語で教えられていたが、同年より小学校 1 年~2 年生に対してはトンガ語を用い、小学校 3 年生以上から英語も使用されるようになった。

中等教育段階では英語の授業が必修である。学校によっては第二外国語 (日本語、フランス語、中国語) も選択科目として開講されている。

外国語の中での日本語の人気

日本語は第二外国語として盛んに教えられている。日本語以外の第二外国語 (フランス語、中国語) が開講されている学校もある。日本文化に興味を持ち受講する生徒や、ラグビー留学を含めた日本留学を目指し受講する生徒、もしくはラグビー選手として日本での活躍を目指し受講する生徒が主である。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

トンガ独自のシラバスに基づいて JICA 海外協力隊員が作成した『さくら III～V』（オリジナル・テキスト）を使用している。（なお、2023 年中のトゥポウカレッジにおいては、兄弟校のある豪州 NSW 州のシラバスを使用していた。）

高等教育

2025 年 11 月現在、日本語教育の実施は確認されていない。

2024 年度までは、トンガ国立大学教育学部（日本語専攻）において『できる日本語』『大地』『プリント』が使用されていた。

学校教育以外

2013 年 12 月に日本政府草の根文化無償資金協力「日本語学習センター整備計画」を通じて建設された「ヘイララさくら日本語学習センター」で開講されている JICA 海外協力隊による日本文化学習講座や、在留邦人による無料日本語講座において、同計画で整備された LL 教育用のパソコンや AV 機器、日本語及び英語の学習教材が使用されている他、JICA 海外協力隊が作成したシラバス、教科書が使用されている。

IT・視聴覚教材

特になし。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

教員養成学校（現在はトンガ国立大学教育学部）で日本語を専攻し、教員養成課程を修了するのが一般的であるが、国費留学等を利用し日本で学位等を修めた者が、日本語教師としての資格はないものの、補助教員として日本語を教えることも可能である。

高等教育

2025 年 11 月現在、日本語教育の実施は確認されていない。

南太平洋大学予備教育課程修了認定試験(South Pacific Form Seven Certificate)の合格を条件としているが、

教師としての勤続年数が長い経験豊富な人材を採用することもある。

学校教育以外

ボランティアで簡易な日本文化学習講座や日本語講座を行っていることがある。

日本語教師養成機関（プログラム）

2025年11月現在、日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

2024年度まではトンガ国立大学教育学部における日本語専攻があった。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

新型コロナウイルス流行以前は JICA 海外協力隊員が教鞭をとっていた。新型コロナウイルス流行やそれに伴う国境封鎖などの影響により、隊員らは全員日本に帰国し、日本語のネイティブ教師は1人も当地にいなくなった。なお、教育訓練省及び各学校からは JICA 海外協力隊員らの復活を希望する声が強く、当地における日本語のネイティブ教師の重要性が伺える。

その後、2023年8月から JICA 海外協力隊員の赴任が復活し、数名の日本語のネイティブ教師が活動を行ってきた。2025年11月現在、同隊員1名がトンガ・ハイスクールで活動している。

教師研修

トンガにおける現職の日本語教師を対象とした研修は、1年に1~2度全島の日本語教師を対象に教師会のワークショップが開かれていたが、新型コロナウイルス流行以降、教師会のワークショップは開催されていない。

訪日研修としては2010年より JF 海外日本語教師長・短期研修プログラムにトンガ人日本語教師延べ7名が参加している。

現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況 日本語教育に関する情報交換や、「日本祭り」「スピーチコンテスト」「書道コンテスト」のような文化行事、「ワークショップ」「シラバス・教科書改訂」といった共同作業を目的として、トンガ日本語教師会（Japanese Teacher's Association of Tonga）が組織され、年に1~2回の総会とワークショップなどを実施していたが、JICA 海外協力隊員が不在だった影響が強く、5年ほど開催されておらず、教師会は消滅している。

この他に JICA 海外協力隊（日本語教育）による「日本語部会」が定期的に行われていたこともあるが、現在は開催されていない。

最新動向

各校で日本語教師が中心となり、「日本祭り」や「日本週間」などの行事が企画実施され、日本のさまざまな文化紹介が行われている。

加えて、在トンガ大使館は、日本語普及を目的として、2010年5月よりトンガ教育訓練省との共催及びJICAとの協力により、毎年「日本語スピーチコンテスト」を実施している。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

なし

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

トンガ高校 1名

その他からの派遣

なし

8.シラバス・ガイドライン

初等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

中等教育

中等教育対象の日本語シラバスがある。2016年にシニア海外ボランティアにより改訂・運用。

高等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

学校教育以外

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

[シラバス・ガイドライン一覧へ](#)

9.評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10.日本語教育略史

1985年	日本の無償資金協力でヴァヴァウ諸島にヴァヴァウ・ハイスクールが建設される
1986年	JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が開始される ヴァヴァウ・ハイスクールで日本語教育が始まる
1987年	アテニシ学院に JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が開始される
1988年	トンガ・ハイスクールに JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が開始される
1993年	トンガ教育省によりシラバスが作成される
1993年	日本の無償資金協力でエウア島にエウア・ハイスクールが建設される
1994年	CDU（教育省教育課程開発部）に JICA 海外協力隊が派遣され、トンガオリジナルの教科書作成が進められる
1995年	トンガシラバスに基づく TSC（トンガ中等教育共通試験）が開始される
1996年	エウア・ハイスクールに JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が開始される
1997年	トンガ国定教科書「さくらⅠ」が完成する
1999年	PSSC（南太平洋後期中等教育修了試験）に日本語の試験が導入される トンガ国定教科書「さくらⅡ」が完成する フォーム6で日本語教育が開始される
2002年	トンガ教員養成学校でトンガ人日本語教師養成授業が開始される トゥポウカレッジに JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が開始される
2005年	トンガで初のトンガ人日本語教師が誕生する アテニシ学院での JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が終了する
2007年	トンガ人教師参加のワークショップが初めて開催される ハアパイにあるタウファアハウ高校に JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が開始される トンガ人教師が初めて国際交流基金の長期研修プログラムに参加する
2010年	第一回日本語スピーチコンテストの開催 トンガ・カレッジで日本語教育の開始

	トウポウカレッジでの JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が終了する タウファアハウ高校での JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣が終了する
2011 年	第二回日本語スピーチコンテストの開催 セント・アンドリュース・ハイスクールにて日本語教育が開始される
2012 年	タイルル・カレッジ（ヴァヴァウ）にて日本語教育が開始される PSSC に代わり TFSC の実施が開始される
2013 年	JICA 海外協力隊により日本語シラバスが改訂される 日本政府草の根文化無償資金協力「日本語学習センター整備計画」により「ヘイララさくら日本語学習センター」が建設される
2014 年	新日本語シラバスを発行、運用を開始する フォーム 7 で日本語教育が開始される TNFSC に日本語の試験が導入される セント・アンドリュース・ハイスクールでの日本語クラスの休講
2016 年	日本語シラバスが改訂される。
2017 年	セント・アンドリュース・ハイスクールで日本語クラス（F3 のみ）が再び開始される。
2025 年	スピーチコンテストに 6 年ぶりに離島の学校（ヴァヴァウ・ハイスクール、エウア・ハイスクール）が参加する。 トンガ国立大学が日本語の授業開講を休止する。

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

E メール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）